平成１８年度

事 業 報 告 書

財団法人　東京都農林水産振興財団

目　　次

平成１８年度事業報告の概要 ---------- 1
１　後継者等対策事業 ---------- 3
（１）　新規就業者支援事業 ---------- 3
（２）　経営活動促進事業 ---------- 5
（３）　都民交流事業 ---------- 6
（４）　林業労働力確保支援センター事業 ---------- 9
２　経営安定対策事業 ---------- 14
（１）　野菜価格安定対策事業 ---------- 14
（２）　農地保有合理化事業 ---------- 15
（３）　畜産振興事業 ---------- 17
３　農林水産資源拡大事業 ---------- 19
（１）　青梅畜産センター事業 ---------- 19
（２）　栽培漁業センター事業 ---------- 20
（３）　奥多摩さかな養殖センター事業 ---------- 22
４　森林整備事業 ---------- 24
（１）　分収林事業 ---------- 24
（２）　都民との協働による森林づくり事業 ---------- 26
（３）　都行造林事業 ---------- 30
（４）　花粉発生源対策事業 ---------- 31
５　緑の募金・緑化推進事業 ---------- 32
（１）　緑の募金事業 ---------- 32
（２）　苗木生産供給事業 ---------- 35
（３）　東京の活力を創出する都市緑化の推進事業 ---------- 37
６　環境保全型農業の推進事業 ---------- 39
（１）　堆肥生産供給事業 ---------- 39
（２）　東村山キャンパス生ごみリサイクル事業 ---------- 39
７　農林総合研究センター事業 ---------- 40
（１）　試験研究事業 ---------- 40
（２）　受託研究事業 ---------- 45
（３）　調査・分析等業務 ---------- 45
（４）　技術相談・依頼試験・試験機器の利用公開 ---------- 45
８　情報提供・普及啓発事業 ---------- 47
（１）　森林総合利用事業 ---------- 47
（２）　総合情報提供事業---------- 49
（３）　食育事業 ---------- 50
（４）　みどり東京プロジェクト体験事業 ---------- 52

平成１８年度事業報告の概要

平成 3 年に「(財)東京都農林水産後継者育成財団」と「(社)東京都野菜価格安定資金協会」が統合して設立された当財団は、平成 10 年には「(財)東京都森林整備公社」を統合し、その後も業務を拡大してきた。平成 17 年度からは、東京都による農業試験場、畜産試験場、林業試験場の統合と試験研究等の当財団への委託により、東京の農林水産業振興において、さらに重要な役割を担うこととなった。

平成 18 年度からは、新たに東京都立食品技術センターを農林総合研究センターと統合し、指定管理者としてその運営管理を受託した。これにより従来の試験研究体制に新たに食品技術の機能を付加することで、生産から食品加工・流通までの一体的な試験研究を展開した。

また、新たに花粉発生源対策事業に取り組み、スギ等を伐採し、花粉の少ない森づくりを進めるとともに、東京の林業の活性化を図っていくことなど、新たな事業にも積極的に取り組んだ。

１　後継者等対策事業

(1)「青年等就農促進」事業として、就農希望の青年等に対し、就農相談や就農に要する資金の貸付を行った。

(2) ニーズに対応した事業内容とするため、自主研究活動に対してより重点課題に取り組めるよう、「戦略的課題研究支援」を行うとともに、都民の農林水産業に対する理解促進と農林水産業者との交流を強化する「生産者と都民との交流」を行った。

(3) 生産者と都民との交流を一層促進していくための都民交流事業を実施した。

(4) 林業労働力確保支援センターにおいては、国からの委託を受けて林業への就業希望者を研修する「林業就業支援」を実施した。

２　経営安定対策事業

(1) 法律などに基づく野菜価格安定対策事業、畜産振興事業は、農家の安定的経営に不可欠な事業であり、着実かつ迅速な事業執行を行った。

(2) 農地保有合理化事業では、島しょ地域を中心に不耕作地解消に取り組んでおり、現地推進会議や担当者会議を開催し、関係機関と密接な連携を図った。八丈町及び三宅島において売買並びに賃借事業を３４８アール実施した。

(3) 補給金の交付に備えて基金を造成するなど、肥育農家である生産者の経営安定を図った。

３　農林水産資源拡大事業

(1) 都からの受託事業として「青梅畜産センター事業」を実施して「トウキョウ X」、「東京しゃも」、「東京うこっけい」等の種畜を生産・配付、農家への技術指導を行い、東京の畜産業の振興に貢献した。

(2) 栽培漁業センターにおいてアワビ、トコブシ、サザエの種苗生産・配付を実施して島しょ地域の磯根資源の維持増大に貢献した。

(3) 奥多摩さかな養殖センターにおいてニジマス、ヤマメ、イワナ、奥多摩やまめの種苗の生産・配付を実施することで、内水面の資源維持と地域産業の活性化に貢献した。また、奥多摩やまめの生産拡大に向けて稚魚の試験配付を行った。

４　森林整備事業

(1) 森林所有者の理解を得て、約３ヘクタールの二者分収育林契約を締結するとともに、搬出条件が良い間伐事業においては材を搬出・販売した。

(2) 都民との協働による森林づくり事業における「奥多摩・武蔵野の森」、「奥多摩共生の森」等において、東京都の 17 年度重点事業の「シカ被害地造林対策」と連携して事業を実施した。

(3) 水源涵養や国土保全、地域林業の振興のため、間伐や枝打などの保育管理を行った。

(4) 花粉発生源対策では、東京都からの出えん金（25 億円）をはじめ、都民や企業からの募金等を活用してスギ林等を主伐し伐採跡地に花粉の少ないスギ等を植栽することで、花粉の少ない森づくりを進めるとともに、伐採した木材の活用により木材需要を拡大することで東京の林業の活性化を図ってきた。

５　緑の募金・緑化推進事業

(1) 緑の募金では 4,784 万円を集め、ボランティア団体・自治会・区市町村等に助成金を交付し、森林整備や都市緑化を推進した。また、ポスター等による広報活動や各種イベントに参加するなど、緑の募金活動の推進を図った。

(2) 苗木生産供給事業では、都の計画に基づき緑化用苗木約２６万３千本を購入し、公共事業・施設向けに苗木供給を行い、緑化を推進した。

(3) 東京の貴重な都市農地の保全、都市の緑化を目的として、「緑の地産地消」をコンセプトにした地域における緑化プロジェクトを推進した。

６　環境保全型農業の推進事業

(1) 東京都有機農業堆肥センターにおいて 510 トンの優良堆肥を生産し、有機農法の実践農家に対して供給（有償）を行った。

(2) 新たに都施設の東村山キャンパス（老人ホーム等）内で発生する生ごみを処理して堆肥化するとともに、老人ホーム入居者に対して野菜づくりの指導等を行った。

７　農林総合研究センター事業

(1) 「農林総合研究センター事業」を都から受託して、農林業の振興を図るため調査・試験・研究を行うとともに、農林業者や都民に対する技術支援や情報提供を行った。

(2) 外部から研究資金を積極的に導入し、受託研究、企業等との共同研究に取り組み、都民に役立つ研究を実施した。

(3) 都からの委託を受け、調査・分析業務を実施した。

(4) 生産者等からの技術相談等に応じ、都民サービスの向上に努めた。

８　情報提供・普及啓発事業

(1) 森林を活用して、都民が自然に親しみ、交流を深めることにより都民参加の森林づくりを推進した。

(2)「東京農業ＷＥＢサイト運営事業」、「東京森と木ＷＥＢサイト運営事業」を受託し、財団ホームページとの連携を図り、都民に対して農林水産業、特産品、食の安全安心等の情報を総合的に提供した。

(3) 子供たちに「食」に関する知識を伝え、健全な食生活を実践できる人材を育成するため、学校教育現場での生活体験学習を推進した。

(4) 「みどり東京プロジェクト体験事業」の企画・運営を市町村会から受託し、森や里、海での自然体験、文化交流を通じて、自然や伝統文化の大切さを啓発するとともに、多摩及び島しょの体験施設を活用することで、地域の活性化を図った。

１　後継者等対策事業

将来の農林水産業を担う後継者等に対し、資金の貸付や各種研修への参加、自主研究活動等の奨励、配偶者確保の支援などを行った。

また、新しい事業展開や経営の高度化を目指す農林水産事業者に対する技術習得の支援などを行うことによって、活力ある東京都の農林水産業振興の推進に努めた。

さらに、都民を対象に畜産とふれあえる体験交流会や畜産料理体験教室を開催し、都市畜産の果たす役割や食育の推進を図った。

（１）　新規就業者支援事業

①　青年等就農促進

東京都から指定を受けた「青年農業者等育成センター」として、青年農業者が円滑に就農できるよう支援を行った。

ア　就農相談

相談員（２名）が就農相談に対応し、新規就農者の支援を行った。また、全国新規就農相談センター主催の「新規就農相談会」に出展し、就農相談を行った。

【就農相談件数】

４８件（内訳：本所　１９件，分室　１４件，相談会　１５件）

イ　就農支援資金の貸付

新規就農者及び就農希望者を雇用・育成していこうとする農業法人等に対して、就農に必要な資金を無利子で貸し付けた。

【平成１８年度貸付実績】

種　類	内　容	実　績
就農施設等資金	機械購入、施設の設置	1件　800千円

ウ　青年農業者等育成

東京都農林水産業技術交換大会の開催、全国農業青年交換大会等への派遣など青年農業者の啓発、研究、交流活動を支援した。

【開催、参加行事等】

名　称	期　間	開催場所	参加者
東京都農林水産業技術交換大会	H18.7.28	女性総合センターアイム	農林漁業者　126名
第１８回全国農業青年交換大会	H18.9.4 ～9.6	山形国際交流センター他	青年農業者　17名
青年農業者と都民の交流会	H18.4 ～H19.2	西東京市内	農業者、都民 延256名

エ　就農促進のための現地農業体験の実施

就農希望者に対し都内の農業現場を紹介するため、現地農業体験を実施した。

【開催内容】

期　間	場所	参加者	実施内容
H19.3.1～3.3	八丈町	10名	オリエンテーション、農業体験(農家２件) 意見交換会、農業関連施設の視察など

オ 新規就業実態調査

平成１７年度に新規就農した農業者４１名を対象に、就農動機や将来の経営方針などについて調査を実施した（回答率　53.7%）。

② 研修等支援

就農する農業後継者の技術向上を目的とした研修活動に対し支援を行った。

ア 研修助成

農業後継者の研修、Ｆ＆Ｕセミナー等へ助成を行った。

項　　目	対象者	内　　容
公立機関等研修への助成	６名	研修先：農林総合研究センター 期　間：１年 科　目：野菜 ４名、果樹 １名、畜産 １名
Ｆ＆Ｕ農業後継者セミナー(協賛)	１３８名	主　催：東京都、東京都農業協同組合中央会 期　間：H18.4～H20.3

イ ふれあい交流会の実施（配偶者確保対策事業）

都内の独身青年農業者と女性との交流会の開催及び地域の交流会への助成を行った。

項　　目	規　模	内　　容
「東京の農業後継者と植える！食べる！遊ぶ！～花の寄植えとＢＢＱ～」	男性:18名 女性:21名	日時:９月３０日 場所:財団(立川)、昭和記念公園
地域ふれあい交流会への助成	３団体	①ＪＡ八王子青壮年部　(38名) ②立川市農研会　(42名) ③ＪＡ東京みどり青壮年部(62名)

ウ 新規就業者の調査

平成１７年度の新規就業者数を調査した。

（新規就業者数　４１名）

全国農業青年交換大会（山形）

青年農業者と都民の交流会

農業体験ツアー（八丈島）

ふれあい交流会の実施(9/30)

（２） 経営活動促進事業

① 自主活動支援

財団に登録された後継者団体の自主的な活動に対し支援を行った。

【支援内容】

区　分	計　画	実　績	主 な 活 動 内 容
自主研究活動	１０団体	１４団体	交信かく乱剤と天敵等の環境負荷提言技術を利用したナシ害虫防除の検討 他
戦略的課題研究	２団体	１団体	学校における食育教育への協力で地域をＰＲ
課題別専門研修	１５団体	１２団体	都市農家と相続について 他
合　計	２７団体	２７団体	

② 研修活動支援

後継者団体が実施する視察研修に対する助成を行った。また、都内の農業後継者の海外への視察研修に対し支援した。

【支援内容】

区　分	計　画	実　績	内　　容
視察研修	２５団体	２４団体	①JA 東京中央千歳地区青壮年部 （鳥取県、白ネギ産地視察） ②JA 東京ｽﾏｲﾙ江戸川地区青壮年部 （千葉県、循環型農業の視察）
海外短期研修	１０名	６名	期　間：H18.9.28～10.7 場　所：オランダ 視察先：トマト施設栽培農家、酪農家 ハプリカ施設栽培農家と選果場 リンゴ・洋ナシ栽培農家 アルスメイアー花卉市場
海外長期研修	１名	１名 （瑞穂町）	名　称：国際農業者交流協会主催 海外派遣農業研修（ﾌﾟﾗﾃｨｶﾙｺｰｽ） 研修先：スイス 内　容：１年間の住み込みによる研修

後継者団体の自主研究活動

海外短期研修（オランダ）

（３） 都民交流事業

① 生産者と都民の交流

「地産地消」をテーマとした生産者と都民との交流会を開催した。

日　時	場　所	参加者	主 な 内 容
H19.3.17	東村山市、東久留米市 西東京市	８０名	協力機関：ＪＡ東京みらい 内容：①野菜の収穫体験、植付体験 ３市内８農家のほ場で実施 ②地産地消弁当の提供 JA 東京みらい管内産の野菜を使った弁当の提供

② 畜産ふれあい体験事業

畜産の生産現場や畜産の果たしている役割、食や命の大切さについて、消費者や学童の理解を促進するため、畜産とふれあえる体験交流会や畜産料理体験教室を実施した。

区　分	計画	実績	内　　容
地域交流牧場協議会	２回	２回	畜産ふれあい体験交流会や畜産体験料理教室など事業推進などにおける検討会 【１回目】 日時：６月７日（水） 場所：財団立川庁舎 【２回目】 日時：３月２０日（火） 場所：財団立川庁舎
畜産ふれあい体験交流会	２回	３回	【１回目・２回目】 日時：８月１日（火）、８月８日（火） 場所：財団青梅庁舎 テーマ：乳牛とのふれあいと新鮮卵を使ったプリン教室 内容：・畜産ふれあい体験（家畜見学、搾乳・心音体験） ・東京畜産の話 ・瑞穂町養鶏農家のとりたて新鮮卵を使ったプリン教室 参加者：１回目　親子１４名、２回目　親子２５名 【３回目】 日時：１０月１６日 場所：財団青梅庁舎 テーマ：秋の青梅で畜産とふれあおう！ 内容：・食育講話　①食べ物の話・命の話　②ミルクの力 ・畜産ふれあい体験（家畜見学、搾乳・心音体験、牛のブラッシング） ・子供簡単料理教室（管理栄養士による「子供にもできる牛乳を使った簡単ドーナッツ作り」） 参加者：稲城市立長峰小学校３年生　７９名

畜産料理体験教室	２回	３回	【１回目】 日時：１１月２９日（水） 場所：東青梅市民センター テーマ：東京ブランド畜産物と地元野菜を使った料理教室 内容：農業改良普及員を講師として、TOKYO X、東京しゃも、東京牛乳や都産野菜（ﾀﾞｲｺﾝ・ｼﾞｬｶﾞｲﾓ）を使った料理教室を実施し、都内産食材の新しい料理方法やジャガイモの品種毎の食味調査を行い、地域における地産地消を実践した。 参加者：２１名 【２回目】 日時：２月５日（月） 場所：あきる野市中央市民会館 テーマ：「風邪に負けない健康生活」～都産の畜産物・野菜を使った料理教室～ 内容：管理栄養士を講師として、TOKYO X や東京牛乳を使って栄養バランスの良い料理を作り、地域からの健康づくりと地産地消を実践した。 参加者：１４名 【３回目】 日時：３月２３日（金） 場所：八丈町保健福祉センター テーマ：八丈島の農水産物を使った料理教室 内容：管理栄養士を講師として、あしたばやさといも、とびうお、八丈バター、八丈島牛乳を使って、今までにない創意工夫ある新しい料理レシピを開発し、島しょでの地産地消を推進した。 参加者：２６名

児童による乳牛の搾乳体験

「牛の心音体験」で命の大切さを学ぶ

児童に食育講話「食べ物の話・命の話」

管理栄養士による八丈島産の食材を使った料理教室

③ 東京の青空塾

地域を対象に農業に関心を持つ都民の参加・協力により、農業者と都民との交流を図りながら、新しい農業の担い手である援農ボランティアの養成及び活動の支援を行った。

ア 援農ボランティアの養成

各地区の援農ボランティアを養成するため、講義及び実地研修を行い、認定証を交付した。

区 分	計 画	実 績	地区数	備 考
新規	４０名	０名	－	計画した東久留米市、小金井市次年度検討
継続	１１０名	８８名	７地区	(内訳) 西東京市(21)、調布市(7)、東村山市(4) 三鷹市(10)、国分寺市(29)、稲城市(2) 杉並区(15)

イ ボランティア傷害保険加入手続き

各地区で活動中の援農ボランティアに対し、傷害保険の加入推進及びその手続きを行った。(加入者数 ３３９名)

ウ 情報提供実態調査

東京都農業会議と合同で、財団が認定した援農ボランティア 1,194 人に対し東京の農業に関する情報提供の希望の有無について調査を行った（回収率 42.9%)。

調査の結果、希望者 377 人に対し情報提供を行った。

生産者と都民の交流会
(野菜の植え付け体験)

援農ボランティアの養成
(開講式)

（４）林業労働力確保支援センター事業

「東京都林業労働力確保支援センター」として、新規の就業や林業従事者の育成など林業労働力確保のための支援事業を実施した。

①　森林整備担い手確保対策（林野庁補助事業）

区　　分		計画	実績	実　施　内　容
林業経営体育成事業	林業就労安定指導員による事業体経営指導活動	１名	１名	○指導員活動日数：延べ１２日 ○活動地域等：多摩川・秋川・浅川流域の林業事業体
基幹林業就業者等養成事業	技術研修会の開催	４回	４回	Ⅰ車両系建設機械技能講習ほか 開催日　①平成18年 8月 5日～10日 ②平成18年 8月21日～23日 ③平成18年 9月 2日～ 3日 内　容：車両系建設機械技能講習ほか 開催場所：コマツ教習所㈱東京センタ 参加者数：計７名 Ⅱチェンソー作業従事者特別教育講習 開催日　④平成18年8月29～30日 内　容：チェンソーの技能取得 開催場所：東京都森林組合 参加者数：２名

車両系建設機技能講習

小型移動式ｸﾚｰﾝ技能講習

② 地域林業雇用改善促進

区　　分	計画	実績	実　施　内　容
ア 相談指導事業	１人	１人	林業雇用改善アドバイザーを委嘱し、都内の林業事業体に対し、林業雇用労働の実態の把握と就業規則等の整備による労働環境の改善についての巡回指導、相談及び求人求職相談を実施した。 ・事業体等の個別巡回指導実績　　９回 ・求職相談実績　　７９人 相談方法　電話67件、ﾒｰﾙ2件、来訪10件
イ 雇用情報収集・提供	２回	２回	雇用情報誌「林業労働力雇用情報」第19・20号を発行し、求人・求職者に情報提供を行った ○雇用情報誌の配布先 ・４７都道府県労確支援センター ・国、都、市町村（林業・労働関係機関） ・森林組合及び林業関係団体
ウ 研修事業等	１回	１回	①林業雇用経営改善セミナーの開催 実施日：平成18年10月3日 会　場：多摩木材センター会議室 講　師：林材ジャーナリスト 赤　堀　楠　雄 テーマ：「森林・林業の現状と木材利用及び林業事業体の活性化」 参加者：４５名

林業雇用経営改善セミナーの開催

③　林業就業促進資金貸付

区　　分	種　類	貸付件数	貸付金額	備　考
林業就業促進資金貸付	就業研修資金	0	0	
	就業準備資金	0	0	Ｈ１６　１件

④　宿舎借り上げ助成

区　　分	計画	実績	実 施 規 模	備　考
新規就労者宿舎借上助成	５棟	５棟	東京都森林組合　５棟	助成期間：３年

⑤　緑の雇用担い手対策事業

区　　分	計画	実績	実 施 規 模	実 施 期 間
緑の雇用担い手対策事業 風倒木処理研修 （集合研修） ◎ 研修場所 ○森林組合　研修室 ○日の出町、檜原村、 あきる野市地内の森林	２０日	２０日	台風等の多様な被害木の状況に応じた処理の実習	7/3～9/8
受　講　者 （本格就労：森林組合）	３名	３名		

刈払機実習

「緑の担い手育成研修」（第１期生）

⑥　林業就業支援

区　　分	計画	実績	実 施 規 模	実 施 期 間
林業就業支援講習 年２回（春期・秋期） １８日×２回＝３６日 受講者 第１回目　７名 第２回目　７名	３６日	３６日	1.林業と山村地域の現状 2.森林と林業の知識 3.林業労働安全教育 4.刈払機作業講習 5.チェンソー作業講習 6.現地講習 7.グループ討議 8.施設見学 9.実地講習 10.就業・生活相談	（１回目） 平成１８年 ４／１８ ～ ５／１６ （２回目） 平成１８年 １０／１７ ～ １１／１０

○研修場所
- 東京都森林組合
- 多摩木材センター協同組合
- 奥森ハウス
- 現地講習（青梅市及びあきる野市地内の森林）

○林業機械講習実施機関
- 林災防　東京都支部
（チェンソー・刈払機）

労働安全講義（林業機械の取扱い及び構造）

⑦　林業労働力就労安定助成

安定した林業労働力を確保するため、各種就労対策の助成を実施した。

また、森林を活用して、都民が自然に親しみ、都市と山村の交流を深めることにより、都民参加の森林づくりを推進するための各種事業を企画し、実施した。

林業労働力の安定、活性化事業

（単位：千円）

区　　分		加入人員（人）				助成状況	
		都森連	都森組	三宅	計	団体実施事業費	財団助成額（助成率）
福利共済制度加入助成	労働災害補償	0	115	0	115	1,216	608 (1/2以内)
	団体定期傷害補償	4	214	0	218	3,306	1,653 (1/2以内)
	共済年金	2	44	0	46	984	492 (1/2以内)
	林業退職金共済	0	0	0	0	0	0 (1/2以内)
	事務費助成	－	－	－	－	500	500 (10/10)
	合　計	6	373	0	379	6,006	3,253

２　経営安定対策事業

（１）野菜価格安定対策事業

平成１８年度は比較的台風等の気象災害が少なく、暖冬の影響により農産物の生育は良好であったことから、大産地におけるハクサイ、ダイコン、キャベツの緊急需給調整が行われ、全国的に野菜の価格は低迷。都内産野菜の価格も同様に年間を通して低迷した。

〔平成１８年度実績〕　（単位：t、千円）

項　　目	計　画	実　績	前年度実績	備　　考
出荷数量	6,689	5,024	5,228	
資金造成総額	134,495	134,495	166,932	
補給金交付額	―――	58,828	74,596	

〔野　菜　別　内　訳〕

野　菜　名	出荷計画(t)	出荷実績(t)	補給金交付額（千円）	備　考
こまつな　※	30	40	924	
カリフラワー	108	55	1,573	
ブロッコリー	53	22	1,368	
ほうれんそう※	23	3	246	
キ　ャ　ベ　ツ	5,737	4,305	48,355	
秋冬だいこん	142	137	2,479	
冬にんじん　※	596	461	3,883	
合　　計	6,689	5,023	58,828	

（注）※計画、実績ともに平成１８年１月から１２月までの数値である。

市場へ出荷される新鮮な東京産野菜

（２）農地保有合理化事業

遊休農地の流動化を積極的に推進するため、平成１８年度は、現地推進会議や担当者会議を開催し、関係機関との密接な連携を図ったことにより、八丈町及び三宅島において売買並びに貸借事業を実施した。

また、事業の普及拡大をはかるため、各種リーフレットをはじめ、事業概要等の作成配布とともに、農地保有合理化事業カレンダー(平成１９年度版)を作成配布した。

更に本年度は事業の計画的執行と事業規模の拡大を確保することを目的として、「農地保有合理化事業推進プラン(５ヵ年計画)」を策定した。

① 農用地買入及び借入実績

区　　分	事　　項	件 数	面　　積	備　　考
本年度新規保有	買 入 農 地	3 件	19,526 ㎡	
	借 入 農 地	2 件	15,252 ㎡	
	計	5 件	34,778 ㎡	**18 年度計画目標 17,000 ㎡**
年度末保有農地	買入保有農地	4 件	22,997 ㎡	
	借入保有農地	13 件	122,344 ㎡	
	合　　計	17 件	145,341 ㎡	

②保有農用地の運用状況

区　　分		件　数	面　　積	備　　考
本年度貸付農地		4 件	22,278 ㎡	八丈島西見地区(12,500 ㎡)については 19 年度購入後貸付実行予定
内訳	一時貸付後売渡農地	2 件	7,026 ㎡	八丈島
内訳	貸付農地	2 件	15,252 ㎡	三宅島
既存貸付農地		12 件	110,563 ㎡	
計		16 件	132,841 ㎡	

③「農地流動化現地対策会議」の開催 ← 八丈島、三宅島等において計６回の開催、そのうち1回は、八丈島において新たな試みとして農地流動化と新規就農事業との連携化への検討会議を開催

④農地保有合理化事業の普及啓蒙の実施

実施項目	実施対象者	実　施　内　容	
相談等件数	都内及び周辺県	１５回/年	①農地保有合理化事業制度について ②農地のあっせんについて ③農地の売却について ④農業生産法人等の設立について 等
資料等の配布	市町村・農業委員会等関係機関	①農地保有合理化事業の概要(財団版) ②農地保有合理化事業の標準様式例(財団版) ③事業リーフレット(全国協会版) ④ふぁーむらんど39・40号(全国協会版) ⑤新・農地保有合理化事業のすべて(全国協会版) ⑥農地保有合理化事業関係通知集(全国協会版) **⑦平成 19 年度版カレンダー(財団版)**	

⑤「農地保有合理化事業推進プラン（５ヵ年計画）」の策定

＝ 都市農業の新たな再生に向けて ＝ (平成18年度～平成22年度)

1. 基本方針
   (1) 農地保有合理化事業における推進姿勢
   (2) 農地保有合理化事業に対する取組み方針
   (3) 農地保有合理化事業における方向性
2. 基本目標
   (1) 農地保有合理化事業における定性的目標の設定
      ①農地保有合理化事業ニーズ情報管理システムの整備
      ②農業後継者及び新規就農者の育成基盤対策の確立
      ③大規模農用地等開発事業の確立
      ④「市民農園」事業化に向けた検討
   (2) 農地保有合理化事業における定量的目標の設定
3 基本目標達成のための事業推進戦略課題
   (1)総合支援システムの構築
   (2)リスクに対応した基金造成への検討
   (3)普及啓発活動の拡充強化
   (4)島しょ地区農業生産基盤整備の総合支援システムの整備

（３）畜産振興事業

牛肉の自由化が肉用子牛の価格等に及ぼす影響に対処するため、肉用子牛の四半期平均売買価格が下落し、国が定めた保証基準価格を下回った場合に補給金を生産者に交付し、肉用子牛生産の安定を図った。また、肥育牛１頭当たりの四半期平均推定所得が基準家族労働費を下回った場合に生産者に補てん金を交付するのに備えて基金を造成し、肉用牛肥育農家の経営の安定を図った。

<table>
<tr><th>事　業　名</th><th>内　　容</th></tr>
<tr><td>(1)肉用子牛価格安定対策事業</td><td>
①肉用子牛生産者補給金交付
肉用子牛の品種ごとに生産者 1/4、都 1/4、(独) 農畜産業振興機構 1/2 の割合で生産者積立金（基金）の造成を行なった。
(独) 農畜産業振興機構が品種・四半期ごとに算定した肉用子牛の平均売買価格が、国の定めた保証基準価格を下回った時は、生産者に補給金を交付するが、今年度は交付がなかった。

・生産者積立金の造成　(生産者 1/4、都 1/4、機構 1/2)
（単位：円／頭）
<table>
<tr><th rowspan="2">区 分</th><th rowspan="2">頭 数</th><th rowspan="2">単 価</th><th rowspan="2">積 立
金 額</th><th colspan="3">負　担　金　額</th></tr>
<tr><th>機　構</th><th>東京都</th><th>生産者</th></tr>
<tr><td>黒毛和種</td><td>66 頭</td><td>9,900</td><td>653,400</td><td>326,700</td><td>163,350</td><td>163,350</td></tr>
<tr><td>交雑種</td><td>24 頭</td><td>5,000</td><td>120,000</td><td>60,000</td><td>30,000</td><td>30,000</td></tr>
<tr><td>乳用種</td><td>15 頭</td><td>12,700</td><td>190,500</td><td>95,250</td><td>47,625</td><td>47,625</td></tr>
<tr><td>合　計</td><td>105 頭</td><td>－</td><td>963,900</td><td>481,950</td><td>240,975</td><td>240,975</td></tr>
</table>
（平成１８年１月から１２月個体登録牛に係る積立金）

・保証基準価格等　（単位：円）
<table>
<tr><th>区　　分</th><th>保証基準価格</th><th>合理化目標価格</th></tr>
<tr><td>黒毛和種</td><td>304,000</td><td>267,000</td></tr>
<tr><td>交 雑 種</td><td>175,000</td><td>135,000</td></tr>
<tr><td>乳 用 種</td><td>110,000</td><td>80,000</td></tr>
</table>
（平成１９年３月末日現在）
・保証基準価格－合理化目標価格＝独立行政法人農畜産業振興機構が全額交付
・合理化目標価格を下回った場合は、生産者積立金を取崩し、差額の 9/10 を交付

・生産者補給金交付実績
<table>
<tr><td>交付対象のべ生産者数</td><td>０戸</td></tr>
<tr><td>交 付 対 象 頭 数</td><td>０頭</td></tr>
<tr><td>補 給 金 交 付 合 計 額</td><td>０円</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

② 子牛生産拡大奨励事業

・黒毛和種繁殖雌牛飼養者　22 戸

子牛価格低落時に肉専用種繁殖雌牛の拡大及び維持農家に奨励金を交付する事業であるが、本年度は黒毛和種の子牛平均売買価格が奨励金交付の基準を上回る水準で推移したため、奨励金交付は行われなかった。

(2) 肉用牛肥育経営安定対策事業

生産者、中央畜産会の２者で生産者積立金（基金）の造成を行い、肥育牛１頭当たりの四半期平均推定所得が基準家族労働費を下回った場合に基準家族労働費の８割を上限として補てん金を生産者に交付するが、今年度は全種類において補てん金の交付はなかった。

＜１頭当たり基準家族労働費＞

肉専用種　　80,997 円
交 雑 種　　39,918 円
乳 用 種　　32,445 円

・生産者積立金の造成（平成１８年１月～１２月に積立金徴収月齢を迎えた牛）

（単位：円）

区　分	頭　数	積立金額	負 担 金 額	
			中央畜産会	生 産 者
肉専用種	173 頭	1,280,200	0	1,280,200
交 雑 種	37 頭	144,300	0	144,300
乳 用 種	100 頭	1,333,400	743,400	590,000
合　　計	310 頭	2,757,900	743,400	2,014,500
割　　合	－	100%	75%	25%

・補てん金交付実績

肉専用種、交雑種、乳用種ともに補てん金交付なし。

※１０ケタの耳標を装着した契約肥育牛

３　農林水産資源拡大事業

種畜、種苗などの農林水産資源を生産・配付して、農林水産業振興に資するために以下の事業を実施した。

（１）青梅畜産センター事業

東京都との委託契約に基づき、安全で高品質な肉や卵を都民に供給するため「トウキョウＸ」、「東京しゃも」、「東京うこっけい」等の種畜の生産・配付を行った。また、種畜等の維持改良を行い、効率的、計画的に供給し、農家への技術指導等を行った。

種畜生産・配付実績

平成１８年度種畜配付規模

種畜の種類		計画	実績
トウキョウＸ（雄）	種豚	35 頭	20 頭
〃　（雌）	〃	115 頭	74 頭
東京しゃも		22,000 羽	20,373 羽
軍鶏交雑種		80 羽	120 羽
ロードアイランドレッド		1,000 羽	1,791 羽
東京うこっけい		10,000 羽	10,291 羽
受託孵化	種卵	12,545 個	13,972 個

上記に関わる飼育・技術指導・安全衛生管理を行った。

トウキョウＸ豚

東京しゃも

東京うこっけい

（２）栽培漁業センター事業

アワビ・フクトコブシ・サザエ種苗の生産・配付等を東京都から受託し実施した。

①種苗生産

		計　画	実　績	実　施　内　容
種苗配付	アワビ フクトコブシ サザエ	１５万個 ８０万個 ５５万個	１５万個 ８０万個 ５５万個	島しょの４漁協１村へ配付 島しょの５漁協２村へ配付 島しょの５漁協１村へ配付
	合　計	１５０万個	１５０万個	

		計　画	実　績	実　施　内　容
種苗生産	アワビ フクトコブシ サザエ	１５万個分 ８０万個分 ５５万個分	１５万個分 ８０万個分 ５５万個分	平成１９年度配付用種苗の採卵・飼育を実施した
	合　計	１５０万個分	１５０万個分	

種苗配付（トコブシ種苗の取上げ作業）

②試験研究

・小型種苗の早期配合飼料転換試験

・餌料海藻アントクメの保存方法

環境適応力が強く、耐病性のある種苗を生産するため、新餌料の導入試験、適正給餌方法を検討した。

③災害対策種苗生産

		計　画	実　績	実　施　内　容
種苗配付	フクトコブシ サザエ	２０万個 ２０万個	２０万個 ２０万個	三宅島へ配付 三宅島へ配付
	合　計	４０万個	４０万個	

		計　画	実　績	実　施　内　容
種苗生産	フクトコブシ サザエ	２０万個分 ２０万個分	２０万個分 ２０万個分	平成１９年度配付用種苗の採卵・飼育を実施した
	合　計	４０万個分	４０万個分	

（３）奥多摩さかな養殖センター事業

東京都の委託契約に基づき冷水性魚類の種苗を生産して、河川漁協・養殖漁協に配付を行い、内水面の資源を維持するとともに、内水面漁業者の経営の安定化及び地域産業の活性化に寄与した。また、生産種苗の質の維持向上及び魚病対策を行った。

① 種苗生産

ア　ニジマス、ヤマメ、イワナ、奥多摩やまめを生産し配付した。

イ　奥多摩やまめの生産拡大のため稚魚の有償配付を開始した。

魚　種	サイズ	計　画	実　績	実　施　内　容
ニジマス	稚魚	30万尾	33万3千尾	
	・春稚魚	10万尾	4万尾	養殖漁協及へ配付
	・秋稚魚	20万尾	29万3千尾	養殖漁協及び２河川漁協へ配付
	発眼卵	21万粒	23万5千粒	養殖漁協及へ配付
ヤマメ	稚魚	24万5千尾	29万7千尾	
	・春稚魚	20万尾	24万7千尾	養殖漁協及び３河川漁協へ配付
	・秋稚魚	4万5千尾	5万尾	養殖漁協及び３河川漁協へ配付
	発眼卵	100万粒	119万粒	養殖漁協及び４河川漁協へ配付
イワナ	発眼卵	10万1千粒	7万7千粒	養殖漁協へ配付
奥多摩やまめ	発眼卵	9万粒	7万7千粒	養殖漁協へ配付
	稚魚	2万尾	2万1千尾	養殖漁協及び１河川漁協へ配付

ウ　上記に関わる飼育・魚病対策の技術指導を行った。

採卵作業：ニジマスの採卵（左）と媒精（右）

② 試験研究

種苗生産事業に関して、下記の試験・研究を実施した。

○冷水魚優良種苗育成試験

・ヤマメ斑紋の遺伝的劣化を防止するため、斑紋の優良な親魚を選抜採卵した。

・生産した奥多摩やまめ発眼卵について倍数性を判定した。

・昨年度、試験配付を行った奥多摩やまめの飼育経過を調査した。

・奥多摩やまめ振興協議会に参加し、奥多摩やまめの PR や加工品の試作を行った。

・IHN 抗病系選抜魚の親魚養成を行った。

・IHN 抗病系親魚から作出した稚魚の試験配付を行った

○ 魚病診断及び疾病別対策研究

・所内で発生した魚病の診断、治療を行った。

・島しょ農林水産総合センターによる管内養殖業者の魚病診断に協力した。

○IHN 抗病性品種の作出試験

・２ｇ及び８ｇのサイズの魚に対して IHN ウイルスによる攻撃試験を行い、抗病性の高い系統を選抜した。

４　森林整備事業

（１）分収林事業

長期の木材価格の低迷により、分収林事業の採算性は極度に悪化している。このため、分収造林事業は、平成１１年度から新規契約を休止している。分収育林事業については、既契約地の保育管理（除伐・枝打・巡視等）を実施するとともに２．９７ｈａの新規契約を締結した。

①　二者分収造林事業

契約地の保育管理実績

（単位：ha）

市町村	巡　視
奥多摩町	0.60
青梅市	6.52
桧原村	6.26
計	13.38

※　森林整備地域活動支援事業により実施

②　二者分収育林事業

ア　契約地の保育実績

（単位は面積：ha、経費：千円）

市町村	既契約地(元～１７年度)			
	除　伐		枝　打	
	面積	経費	面積	経費
奥多摩町	8.02	4,263	2.15	1,420
青梅市	9.51	3,759		
日の出町				
あきる野市	0.53	189		
桧原村				
八王子市				
計	18.06	8,211	2.15	1,420

イ　契約地の管理実績

（単位は面積：ha、延長：ｍ、経費：千円）

市町村	既契約地		１８年度契約地					
	巡　視		作 業 路		調査測量		表示板等	
	面積	経費	延長	経費	面積	経費	面積	経費
奥多摩町	128.92	431						
青梅市	6.52	45	150	248	2.97	489	2.97	40
日の出町	1.89	5						
あきる野市	13.05	36						
桧原村	71.25	172						
八王子市	14.96	36						
計	236.59	725	150	248	2.97	489	2.97	40

除伐を実施した分収育林

ウ　平成１８年度新規契約状況

（単位は面積：ha、経費：千円）

市町村	箇所数	契約者	面積	除地	施業面積	樹 種	支払対価	森林保険
青梅市	1	1	2.97	0.11	2.86	ｽｷﾞ ﾋﾉｷ	930	305
計	1	1	2.97	0.11	2.86		930	305

③　森林整備地域活動支援事業

森林施業計画書の認定を受けたため、市町村と締結した協定（５市町村・２９５．４８ｈａ)に基づき、以下の交付対象事業を実施した。

事業の内容	数 量	経費(千円)
既契約地の見回り管理	294.61ha	701
歩道整備	670m	1,137
境界ペイント	176.57ha	988
森林調査	35.02ha	127
計		2,953

④　三者分収育林事業

施業計画に基づき保育・管理を実施した。

（単位は面積：ha、経費：千円）

契約年度	森の名称	保　育			管　理			経費計	伐採年度
		内容	面積	経費	内容	面積	経費		
H９	百尋	除伐	10.07	3,675				3,675	H32
８	奥多摩湖畔				巡視	13.58	0	0	29
７	古里				巡視	8.96	0	0	32
６	深沢				巡視	9.32	25	25	28
５	川のり				巡視	10.57	28	28	28
４	栃寄				巡視	10.32	27	27	28
３	神戸				巡視	7.02	19	19	28
２	人里				巡視	5.01	13	13	26
	計		10.07	3,675		64.78	112	3,787	

※ 奥多摩湖畔の森、古里の森の巡視は森林整備地域活動支援事業により実施

（２）都民との協働による森林づくり事業

①　二俣尾・武蔵野市民の森

平成１３年度に山林所有者、武蔵野市、財団の３者間で協定書を締結した「二俣尾・武蔵野市民の森」において事業を実施した。

区　　分	計 画	実 績	実　施　内　容
・運営協議会	２回	２回	・年間スケジュールの調整 市民の森の活用方法等の検討 森林の整備方針等の検討 市民の森事業の活動紹介の検討
・森林整備・管理	１式	１式	・下刈、間伐、枝打、歩道改修、間伐材搬出利用、森林巡視、その他
・森の市民講座	４回	４回	・講座：東京の森の話　活動：森から集めた素材を利用したﾘｰｽ作り等を実施した。
・動植物生息･生態調査 （H14から継続調査）	１式	１式	・スギ･ヒノキ林で行う間伐等森林施業が動植物に与える影響を調査した。

森林の整備状況(枝打)

森の市民講座
(武蔵野市役所で講座後にリース作り体験)

② 奥多摩・武蔵野の森

武蔵野市、奥多摩町、財団の三者による森林整備協定(平成17年3月締結)に基づき、奥多摩町内のシカ被害地の森林の復旧事業を行った。

項 目	実 施 内 容
全体計画	① 整備箇所 奥多摩町氷川字逆川（通称：ウスバ地区） ② 面 積 ３．３ha ③ 植栽樹種 ミズナラ・ケヤキ・クリ等広葉樹 ④ 協定期間 １０年間 ⑤ 整備内容 シカ柵整備、植栽、作業路整備、丸太柵工、見回管理 ⑥ 整備費用 武蔵野市と奥多摩町が出資
18年度実績	①森林整備等 見回管理、歩道改修、補修用資材の運搬、植生調査 ②運営委員会 奥多摩町・武蔵野市と森林整備方針について検討

施工前（2005.08.29）

施工後（2006.08.22）

シカ柵等の設置による植生の回復状況

③　奥多摩・昭島市民の森

昭島市、森林所有者、財団による三者で締結した分収林契約に基づき、奥多摩町の裸山の整備を行った。

項　目	実　施　内　容
全 体 計 画	①　整備箇所　奥多摩町氷川字大沢入 ②　面　積　１．４４ha ③　植栽樹種　花粉の少ないスギ、ヒノキ、郷土樹種（ヤマザクラ等） ④　契約期間　５０年間 ⑤　整備内容　植栽、下刈、除・間伐、枝打等、シカ害対策
18年度実績	①　森林整備等　下刈

全景（下刈実施後）

シカ柵・単木ネット（H17年度設置）

④　企業の森（航空電子グループの森）

企業の支援による森林整備事業として、日本航空電子工業株式会社、森林所有者、財団の三者で締結した分収林契約に基づき、奥多摩町の裸山の整備を行った。

項　目	実　施　内　容
全 体 計 画	①　整備箇所　奥多摩町氷川字大沢入 ②　面　積　１．３３ha ③　植栽樹種　ヒノキ、郷土樹種（コブシなど） ④　契約期間　５０年間 ⑤　整備内容　植栽、下刈、除・間伐、枝打等
18年度実績	①　森林整備　下刈、シカ害対策（技術協力） ②　イベント　平成18年7月11日　社員による下刈 平成18年12月1日　社員によるシカ害対策（ネット設置）

航空電子グループ「環境報告書2006」より

社員によるシカ害対策

⑤　奥多摩共生の森

平成１５年度より、未済造林地の土地所有者である奥多摩町と３５年間の使用契約を結び、森林を造成する「奥多摩共生の森整備事業」を実施している。

森林の整備に当たっては、財団の各種事業を活用し、不足する資金を都民から広く募金を集める。

項　目	実　施　内　容
全体計画	①　整備箇所　奥多摩町氷川字大沢入（奥多摩町有地） ②　面　積　11.3ha ③　植栽樹種　トチ、ケヤキ、モミジ、スギ外 ④　整備期間　３５年間（植栽は、15～17年度） ⑤　整備費用　全体計画　57,200千円（募金目標　21,000千円）
18年度実績	①　森林整備　下刈、シカ害対策（シカ柵設置、植栽等） ※東京都『シカ被害地造林対策事業』により実施 ②　記念植樹会　１１月１８日 参加者：日本ﾎﾞｰｲｽｶｳﾄ東京連盟、(社)ｶﾞｰﾙｽｶｳﾄ日本連盟東京都支部、奥多摩町、東京都森林組合 ③　募金実績　1,200千円

全景写真

記念植樹会

（３）都行造林管理事業

水源涵養、国土保全、公有財産の造成及び地域林業の振興を目的に、東京都から管理を受託した多摩地域の都行造林地について、下記のとおり各種作業を実施した。

（単位：ha）

事　業　名	作　業　種	計　画	実　績
多摩森林育成	間　伐	１６．０９	１６．０９
	枝　打	４５．４６	４５．４６
	つる切	６．８０	６．８０
	保育施業　計	６８．３５	６８．３５
都行造林管理	間　伐	１３．９０	１３．９０
	管理作業　計	１３．９０	１３．９０

間伐作業後

枝打作業後

（４）花粉発生源対策事業

東京都からの出えん金（25 億円）をはじめ都民や企業からの募金等を財源に、スギ林等を主伐して伐採跡地に花粉の少ないスギ等の苗木を植栽する主伐事業を実施し、東京の林業の活性化を図る。

項　目	計　画	実　績	実　施　内　容
①スギ林等の伐採及び搬出	25ha	29.05ha	○専門調査員を採用。 ○森林所有者への PR 及び候補地の開拓、交渉。 ○H18 年 11 月 13 日主伐式典を開催。 ○H18 年度の契約実績　17 件　29.05ha。
②貯木場の整備	貯木場の設置	仮貯木場を開設	○多摩木材センターと仮貯木場の賃貸契約を締結し、H18 年 11 月に仮貯木場を開設。 ○本貯木場の候補地を調査。（東京都）
③木材の販売	木材の販売	市場へ出荷	○建築材として市場に出荷。 ○合板、チップ等の販路開拓、交渉。
④募金活動	1 億円	22,830,185 円	○東京都、関係機関と連携し、都民や企業等からの募金活動を実施。 ○森づくり支援倶楽部の創設（１０月） ○各種イベントの実施 ・伐採開始式（11 月 13 日、青梅市柚木、知事出席） ・花粉の少ない森づくり運動 新宿西口イベント（1 月 17 日～19 日）

5　緑の募金・緑化推進事業

（１）緑の募金事業

①　緑の募金活動

１８年度の募金目標額は、１７年度と同様の８，０００万円とし募金活動に取り組んだ。募金実績は４，７８４万円、目標額に比し６０％の達成率であり、１７年度実績より約１９２万円増となった。

１８年度は、東京都が進めている「花粉の少ない森づくり運動」に協力するとともに、引き続き日刊紙やポスター等による緑化運動啓発のための広報活動をはじめ、各種イベントに参加して、東京の森林の紹介、森林の大切さ、地球温暖化防止などをアピールし、緑の募金活動の推進を図った。

（単位：千円）

団　体　別	募　金　額
区市町村	14,556
学校（公立・私立）	4,322
東京都庁	2,308
企業団体	5,207
ボーイスカウト	1,985
ガールスカウト	2,802
事業指定募金	15,296
東京緑化推進委員会	1,373
合　　計	47,849

（単位：千円）

種　別	募　金　額
家庭募金	9,006
街頭募金	5,435
職場募金	5,432
企業募金	20,328
学校募金	4,322
そ の 他	3,326
合　計	47,849

街頭募金キャンペーン

② 森林の整備・緑化推進

ア ボランティア団体等の実施する森林の整備事業への助成金交付
・１６団体 ２，７９２千円

イ 自治会等の森林づくり事業への助成金交付
・２箇所 １，２３４千円

地 域	事 業 名 及 び 事 業 内 容	事業費（千円）
奥多摩町 氷川	「ドコモ奥多摩の森整備事業」 １．０ha ドコモ社員による下刈り研修 ４０名	２３４
日の出町	「麻生平・水源の森育成事業」 １．０ha ヤマツツジ、ミツバツツジの植栽 ２００本	１，０００

ウ 募金協力団体による緑化推進事業への助成金交付
・３４区市町村 ４８件 ９，７００千円
・２団体 ４件 ２，０５９千円

エ 学校及び社会福祉施設緑化事業への助成金交付
・２校、１施設 ５９４千円

オ 東京の森づくりモデル事業（木下沢都有保健保安林の活用）
・検討委員会の開催、グランドデザインの作成、森林の整備 ６，３００千円

台東区アジサイ植樹式

「麻生平・水源の森」植樹会

③　普及啓発

ア　募金ＰＲ事業

事　　業　　名	事　　業　　内　　容
緑化ポスター原画募集 緑化標語募集 交通機関によるＰＲ 緑の募金ＰＲ用花壇 日刊紙によるＰＲ	応募状況　２０４校　１，４０１点　入賞　２５点 応募状況　１，３１５点　入賞　２２点 都営交通全車両　４月１６日～　４月２２日 六本木ヒルズ　９月１日～１２月２５日 西多摩新聞　３月２３日

イ　募金キャンペーン等

事　　業　　名	実　　施　　日	場　　所
総理緑の羽根着用キャンペーン みどりの感謝祭 緑の募金街頭キャンペーン 多摩の物産＆輸入品EXPO’06 木と暮しのふれあい展 多摩青果まつり アグリ・フェスタ・トウキョウ 緑化運動ポスター原画・標語展	４月２１日 ４月２９日 ４月２９日 ７月１４日～１５日 １０月７日～８日 １０月２２日 １１月２日～３日 ３月２２日～２５日	総理官邸 都立日比谷公園 数寄屋橋公園 国営昭和記念公園 都立木場公園 東久留米地方卸売市場 明治神宮広場 東京ビッグサイト

ウ　森林づくり親子体験キャンプの開催

森林・林業に対する理解を深めるため、平成１８年８月５日～６日に檜原村の「フォレスティングコテージ」において親子参加による森林体験キャンプを開催した。

木と暮しのふれあい展

緑化運動ポスター原画・標語展

（２）苗木生産供給事業

東京都では「緑の東京計画」、「東京都における自然の保護と回復に関する条例」、「東京都環境物品等調達方針」に基づき、市街化区域内の農地を活用した緑化用苗木の生産供給を行っている。財団は都からの業務委託により、以下の項目について事業を実施した。

①　苗木の購入

新たに委託する緑化用苗木（稚苗）の購入を行った。

区　分	計　画	実　　績	備　　考
購入本数	250,000本	購入本数合計　　263,128 本	公共事業・施設向けに苗木の購入を行った。このうち新規委託を実施したものは256,087本(11月及び3月購入)である。購入本数の増加は、需要増を見込んだものである。
購入樹種	２０樹種	購入樹種　２１樹種	
都内産苗木購入比率	８５％	新規委託に占める都内産苗木の購入比率　約８０％	

都内産苗木生産状況（つつじ）青梅市

② 栽培管理委託

苗木の栽培管理作業は、都内１２ＪＡに委託して実施した。

なお、管理委託に併せて掘取運搬作業の委託も行った場合、割安な掘取運搬経費となるため、５ＪＡに掘取運搬作業の委託を併せて行い、経費の縮減を図った。

区　分	計　　画	実　　績	備　　考
委託面積	通年委託分 16.1ｈａ 新規委託分　2.8ｈａ	通年委託分16.1ｈａ 新規委託分 3.0ｈａ	11月購入分
委託本数	通年委託分567,000本 新規委託分150,000本	通年委託分566,759本 新規委託分132,388本	11月購入分
委託農協	１２ＪＡ	１２ＪＡ	５ＪＡで掘取運搬 作業実施

③ 苗木の供給

東京都の指定した供給先へ苗木を供給するため、圃場からの掘取・運搬を行った。また、屋上や壁面等の新たな緑化事業へも供給し、都内産緑化植物のＰＲを実施した。

区 分	計　画	実　績	備　　考
供給本数	250,000本	266,939 本	財団運搬分266,272本(JA堀取分含む) 自力運搬分　667本

苗木委託ほ場（つつじ）　立川市

（３）東京の活力を創出する都市緑化の推進事業

東京の貴重な都市農地の保全、都市の緑化を目的として、「緑の地産地消」をコンセプトにした地域における都市緑化推進プロジェクトを推進した。

①　推進会議の実施

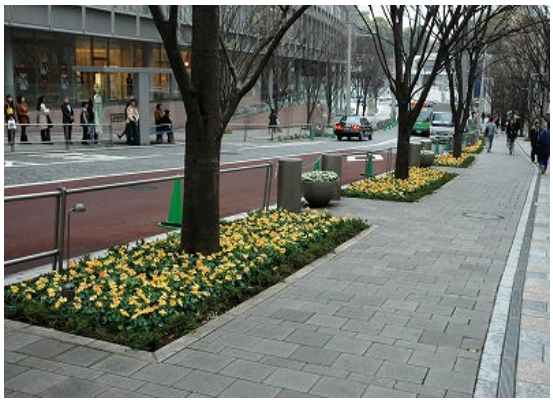
「緑の地産地消」をコンセプトに、都市緑化を積極的に推進するため、生産者・農業団体・有識者・行政機関による都市緑化推進プロジェクトの検討を行った。

項　　目	内　　容
第１回推進会議	日　　時：１２月６日（水） 場　　所：財団特別会議室 植木・花卉生産者をメンバーとして都市緑化推進プロジェクトの検討を行った。 メンバー：ＪＡ東京植木、東京都農業法人協会、日本植木協会、東京都花卉連、植木生産者、東京都土地改良事業団体連合会　等
第２回推進会議	日　　時：１２月１３日（水） 場　　所：財団講堂 ＪＡ等農業団体をメンバーとして都市緑化推進プロジェクトの検討を行った。 メンバー：ＪＡ東京植木、ＪＡ東京マインズ、ＪＡ東京むさし、ＪＡ東京青壮年組織協議会、東京都農業体験農園園主会、東京都都市農業検討委員　等
第３回推進会議	日　　時：１２月１５日（金） 場　　所：都庁会議室 都庁・民間をメンバーとして都市緑化推進プロジェクトの検討を行った。 メンバー：東京都農林水産部、多摩らいふ倶楽部、株式会社東京ドームＡＢＣ開発、ウイズガーデン　等

都庁で行われた第３回推進会議で、
都市緑化推進プロジェクトを検討

② 都市緑化推進プロジェクト

プ ロ ジ ェ ク ト の 内 容
《プロジェクト１》 六本木ヒルズけやき坂通り花壇プロジェクト （内容）けやき坂通り花壇を東京産の花で年５回植栽し、「緑の地産地消」の積極的な推進と都心における良好な景観形成を推進した。 事業を推進するにあたり、関係機関による年５回の推進会議を開催した。
《プロジェクト２》 東京ドーム地産ガーデニングプロジェクト （内容）東京ドームエリアの壁面や屋上などを花や植木で植栽し、彩りのある空間を創出するとともに、水辺空間も緑化することで潤いのある景観を演出する。 取組み１：ラクーア広場でのラクーア４周年記念イベントで、研究センターの研究成果（薄層マット、壁面緑化技術）を盛り込んだ緑化展示を行った。
《プロジェクト３》 神代植物公園活性化構想 （内容）農業関係機関・民間企業とチームを組み、神代植物公園（無料開放区域）を利活用して、東京における農業・農地の多面的機能の発揮や農業に携わる人材の育成、農業情報の発信を図る。 また、農業関係機関が公園作りにも参画することで、、従来の見て楽しむ公園から、「参加して体験する公園」「生活のにおいのする公園」をめざし、新しい都立公園のモデルを作る。そのための構想を策定した。 構想名：神代植物公園活性化構想 副　題：じんだいＬＯＨＡＳ コンセプト：－　ＬＯＨＡＳ的な生き方を「緑」と「農」と「食」をとおし提案・提供し続ける公園をめざします



黄色いナスタチウムで彩られる春のけやき坂

コリウスのコントラストが美しい夏のけやき坂

6　環境保全型農業の推進事業

有機農業などの環境と調和した環境保全型農業を推進するため、優良堆肥の生産供給を行った。

（1）堆肥生産供給事業

環境保全型農業の推進策の一環として、東京都有機農業堆肥センターにおいて優良堆肥を生産し、有機農法の実践農家への円滑な供給（有償）等を行った。また、生ごみ処理物や地域の剪定枝等の未利用資源を活用した堆肥化の実証モデルプラントとして、積極的に施設や技術を公開し、循環型社会の構築に貢献した。

事　業　内　容	計　画	実　績
①　堆肥生産・供給目標量	725ｔ	510ｔ
有償供給　農家実戸数　184戸	450ｔ	329ｔ
無償供給　農林総合研究センター　115ｔ	150ｔ	118ｔ
その他各種イベント等　3ｔ		
②　優良堆肥生産技術の実証・展示		
視察及び研修等の受入れ		19団体230人

（2）東村山キャンパス生ごみリサイクル事業

都施設の東村山キャンパス（老人ホーム・ナーシングホーム・医療センター）内で発生の生ごみを処理して堆肥センターにおいて堆肥化を行った。また、老人ホーム入居者に野菜づくりの指導や講習会を開催した。

事　業　内　容	計　画	実　績
①　生ごみ処理量	150ｔ	158t
（　）内は処理物生産量	（30ｔ）	(35ｔ)
②　農業指導の開催	4回/年	4回/年

7　農林総合研究センター事業

東京都の委託を受け、東京の農林業の振興を図るため、調査・試験・研究を行うとともに、東京都の行政、普及部門との連携を図りながら、農林業者や都民に対する技術支援や情報提供を行なった。

（1）試験研究事業

東京都との委託契約に基づき、以下の課題についての試験研究業務を実施した。

①試験研究の効率的な運営・管理〔研究課題　4テーマ〕

都民の意見を反映させた研究方針の策定、研究の進行管理と評価、連絡調整、総合的な研究企画・立案等を行なった。また、成果や各種情報を積極的に発信して、都民や生産者に役立つ試験研究を効率的かつ効果的に推進した。1室、5科、1分場、食品技術センター合わせて58課題に取り組み、「成果情報」83報、「研究速報」53報、「東京都農林水産技術成果選集」6報、プレス発表5報などを公表したのをはじめ、3月9日に開催した農総研センター研究発表会では、13の研究成果を公表した。

②バイテク技術等を利用した東京特産品種の育成〔研究課題　6テーマ〕

植物バイオテクノロジー技術等を応用し、都民の需要に適応する野菜、花、果樹等の新品種育成や優良品種を選定し、東京特産品種の育成を図った。

図1サトイモ優良系統の選抜
収量性、形状、揃い、食味などの生育特性を調べ東京特産品種の育成に取り組んだ。
写真上：系統ＤＣＨ
写真中：系統ＤＫＯ
写真下：系統ＤＨ

図2香りシクラメンの育成
シクラメンの原種「プルプラスセンス」とシクラメンの園芸品種「ビクトリア」を交配し、雑種未熟種子を胚培養することによって芳香性のある新しいフリンジタイプの優良品種Ｄ2「はれや香（仮称）」を育成した。ジヒドロファルネソール（さわやかな香り）の香りを発散する。平成19年度に種苗登録申請予定。

③高品質・高付加価値農作物の育成〔研究課題　3テーマ〕

収益力の高い農業経営を実現するため、高付加価値生産システムを開発・導入し、高ミネラル・低硝酸・無農薬など、こだわり農畜産物の新商品開発に取り組んだ。

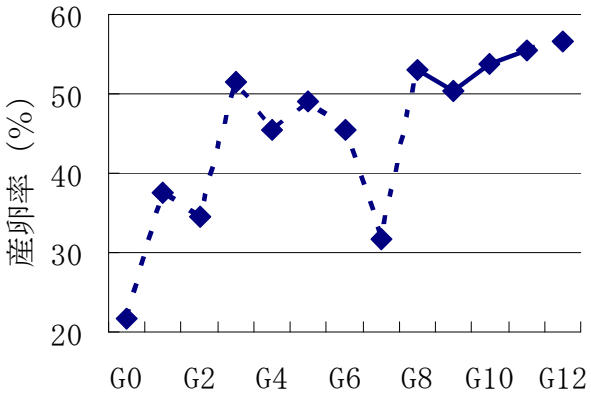


図１　産卵率の世代推移

図３東京うこっけいの性能向上
烏骨鶏の第 12 世代(G12)の産卵能力検定を 151～450 日齢の 300 日間行った。その結果、56.6%と系統造成開始以来の高い成績を達成した。飼料要求率も G12 では 2.7 と向上し、改良の効果が上がっている。卵黄重比は 30%以上を推移する。

④園芸作物の生産性向上技術開発〔研究課題　5テーマ〕

果樹･花生産者の収益力を高めるため､省力化や低コスト化のための栽培技術開発に取り組んだ。

図4ポインセチアの出荷前の養液濃度の違いと草姿
左から，水，200ppm，400ppm 区の処理区で栽培。肥料が多いと葉が大きく、草姿が乱れて品質を悪くした。

⑤畜産の生産性向上技術開発〔研究課題　7テーマ〕

畜産物の安定供給と安全性を確保し、畜産経営の発展を図るため、行政や普及部門、他の試験研究機関と連携しながら、生産現場が直面する問題解決のための試験研究と技術的支援を推進した。

⑥農産物の安全性確保技術の開発〔研究課題　３テーマ〕

農薬や汚染物質等の農産物や環境への残留実態を明らかにするとともに、残留回避技術や農薬等の迅速分析法を開発し、安全で高機能な農産物の生産を目指した。

図５茶葉による抗菌性飼料添加物代替技術の開発

抗菌性飼料の代替として茶葉（1mm 角）を用い離乳後より 12 週齢まで調査。その結果、体重は 10%以下の減少に抑え、インターフェロン製剤を併用することで体重の減少は見られなくなることを明らかにした。

⑦病害虫総合管理技術（ＩＰＭ）の開発研究〔研究課題　４テーマ〕

農作物に発生する病害虫の発生生態を明らかにし、様々な手段を組み合わせた総合的な病害虫管理技術に取り組み、農産物の安定生産や品質の向上を図った。

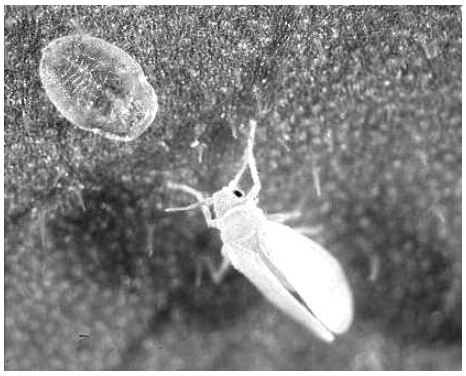


図６新しい病害・トマト黄化葉巻病

都内の施設栽培トマトで、上位葉が葉縁部から黄化し、全身の葉が葉巻症状を呈する症状が発生した。発生状況を調べ、病害をエライザ法およびＰＣＲ法による病原ウイルスを検定した。その結果、都内では未発生のトマトイエローリーフカールウイルス（TYLCV）を検出し、本症状がトマト黄化葉巻病であることを確認した。

写真上：発病株

写真下：病害を伝搬するタバココナジラミ

左上：幼虫　右下：成虫

⑧有機資源管理・利用技術の開発〔研究課題　５テーマ〕

農業に応用できる有機資源のリサイクル技術及び有害物質を低減化させる微生物の利用技術に取り組み、環境に配慮した農業を推進し、安全・安心な農作物の開発に取り組んだ。

⑨土壌総合管理技術及び農作物の機能性成分解明〔研究課題　５テーマ〕

環境と調和する農業生産を目指すため、農業資源である畑土壌の悪化防止や改善研究を行い、適切な土壌管理を指導・推進した。都特産作物の機能性成分を解明し、農産物の安定生産や品質向上、食の安全を図った。

⑩緑化植物を活用した都市環境改善技術の開発〔研究課題　２テーマ〕

環境緩和効果をもたらす街路樹等の緑化植物の特性及び環境適応性を解明することにより、景観形成やうるおいのある街づくりの実現を目指した。

図７新素材による屋上・壁面緑化講演会を都民ホールで開催（９月 29 日）

来場者 227 名で、８割以上が造園や建築、公共団体等の担当者であった。また、都民広場には、マット植物、薄層コンテナ植物、つる性長尺苗などの新しい植物素材約 50 品種 1500 苗による 200 ㎡の展示には、約 1000 名が来場する盛況ぶりであった。

⑪豊かな森づくり技術の開発〔研究課題　４テーマ〕

林業経営は低迷し、東京の森林の荒廃が進んでいる中で、林業・林産業の振興及び森林の保全・育成のための技術開発を通じて、地域の活性化と都民生活の安定に貢献した。

図８三宅島における有用樹種の生育可能地図を作成

先の噴火により森林面積の約 60％にあたる 2500ha が被害を受けた三宅島に、平成 17 年４月に島内 23 ヵ所にスギ、オオバヤシャブシ、ヤブツバキ、ヒサカキの４樹種の苗木を植え付け、調査結果から、樹種別の生育可能地域を明らかにした。左図：オオバヤシャブシ

⑫江東地域における高度集約型園芸技術の開発〔研究課題　２テーマ〕

江東地域の農業振興を図るため、地域の基幹品目であるコマツナや鉢花などの高品質生産技術開発ならびに江戸伝統野菜の安定生産技術の向上に努めた。

図９亀戸ダイコンの作期拡大

収穫期が１～３月である亀戸ダイコンは、ハウス栽培により 12 月～4 月中旬、冬季の温度管理と夏季の遮光処理により 10 月中旬～5 月中旬の収穫が可能となり、大幅な作期の拡大を可能にする栽培技術を明らかにした。

⑬食品の安全性確保技術と機能性食品の開発〔研究課題　４テーマ〕

安全・安心な食品づくりを支援するための新技術の開発や健康増進に繋がる機能性成分に関する研究を進めた

⑭地域資源を利用した食品の開発〔研究課題　４テーマ〕

地域の農水産物資源を有効活用する技術や東京ブランド食品を開発し、地域産業の活性化を図った。

図 10 新しい水産加工品の開発

魚肉すり身に塩 2.5%、魚油 10%を加えると弾力性が高くなり、ねり製品の製造に向いている。これに対し、魚油、次に塩を加える製造では、弾力性が低く、やわらかい食感になることからテリーヌなどの中間素材に利用できることを解明、都水産加工組合に技術移転を行った。

写真：テリーヌ

（２）受託研究事業

研究のための資金を外部から積極的に獲得し、受託研究、企業・大学等との共同研究を推進した。また研究外部資金として、52,939 千円獲得した。

共同研究

契 約 先		契約件数
A	独立行政法人研究所、農水省	7
B	大　　学	１１
C	大学＋民間企業	0
D	公益法人、団体等	2
E	民間企業	4
合　　計		２４

（３）調査・分析等業務

東京都からの５課題の委託試験を受け、調査・分析業務を行った。

（４）技術相談・依頼試験・試験機器の利用公開

⑴ 技術相談

電話相談等にて1,240件、来所相談にて1,237件、合わせて2,477件の技術相談を行った。

⑵ 依頼試験

要請のあった依頼試験233件を実施した。このうち189 件について 992,600 円の歳入となり、 残り44件については、免除対象事業であり、免除額は、348,800 円であった。

⑶ 開放試験室の活用

開放試験室設備機器の充実と適正な管理に努め、また、利用者の利便性の向上を図りながらの活用に努めた。平成１８年度利用においては、９３８件の利用があり、使用料歳入は、200,830 円であった。

開放試験室の開放

＜都民とのふれあい＞

財団フェア
（イモ掘り体験、農産物直売など：10 月開催）

家畜ふれあいデー
（乳搾り体験、ひよこコーナーなど：4 月・9 月）

８　情報提供・普及啓発事業

（１）森林総合利用事業

都民が森林及び林業についての理解を深めるための各種イベントを実施した。

平成１８年度　森林総合利用実績

回	名　　称	内　　容	時　期	実施場所	参加者	天候
1	第1回森林ふれあい教室	森林に棲む昆虫の生活を覗いてみよう	7月22日（土）	日の出試験林	61	曇
2	第1回森林浴登山	森林観察	7月29日（土）	浅間尾根	29	曇
3	先生のための森林環境教育セミナー	林業体験・森林観察・講義	8月3日（木）～4日（金）	奥多摩町	7	晴
4	森林づくり親子体験キャンプ	間伐体験・川遊び	8月5日（土）～6日（日）	檜原村	20	晴
5	第2回森林浴登山	森林観察	9月30日（土）	鳩ノ巣渓谷	25	晴
6	野生キノコ教室	観察・講義	10月5日（木）	日の出庁舎	70	雨
7	第3回森林浴登山	森林観察	10月21日（土）	裏高尾	24	曇
8	第2回森林ふれあい教室	感じよう森の空気。木登りにトライ	10月28日（土）	日の出庁舎	39	晴
9	オーナーハイク	森林観察	11月11日（土）	今熊山	13	雨
10	第4回森林浴登山	森林観察	11月18日（土）	今熊山	36	晴
11	森づくり植樹体験とおやきづくり	広葉樹の植栽とおやきづくり体験	11月25日（土）	檜原村	20	晴
12	第3回森林ふれあい教室	森づくり作業と木工クラフト	2月24日（土）	日の出庁舎	16	晴
13	第5回森林浴登山	森林観察	3月17日（土）	南高尾	55	晴
14	第4回森林ふれあい教室	シイタケづくりと昆虫の住処づくり	3月24日（土）	日の出庁舎	32	曇
15	第5回森林ふれあい教室	〃	3月25日（日）	〃	25	雨
合　　計					472	

晩秋の今熊山森林浴登山

【森林浴登山】
～森林観察とハイキング～
◇　深緑の浅間尾根（７月２９日）
◇　初秋の鳩ノ巣渓谷（９月３０日）
◇　仲秋の高尾（１０月２１日）
◇　晩秋の今熊山（１１月１８日）
◇　早春の南高尾（３月１７日）

野生キノコ教室

【野生キノコ教室】
～野生キノコの標本観察と講義～
◇　農林総合研究センター日の出庁舎
（１０月５日）

森林ふれあい教室（ツリークライム）

【森林ふれあい教室】
～日の出試験林を活用した各種体験教室
◇　昆虫観察（７月２２日）
◇　ツリークライム（１０月２８日）
◇　間伐と木工クラフト（２月２４日）
◇　シイタケづくりと昆虫の住処づくり
（３月２４日、２５日）

【先生のための森林環境教育セミナー】
～小学校の先生を対象に、森林観察や林業体験等を実施～（８月３日～４日）
【森林づくり親子体験キャンプ】
～小中学生の親子を対象に間伐体験や魚の川遊び等を実施～（８月５日～６日）

森林ふれあい教室（シイタケづくり）

（２）総合情報提供事業

東京農業ＷＥＢサイト、東京森と木ＷＥＢサイト、財団ホームページを連携して、都民に対して農林水産業、特産品、食の安全安心等の情報を総合的に提供した。

①　東京農業ＷＥＢサイト運営事業

東京の農業や農地の働き、農畜産物・特産品、食の安全・安心などの都民向けの情報を発信するために、東京都、農業団体等が構築したＷＥＢサイト運営委員会より管理・運営を受託した。

昨年度は、農業関連イベントやニュースなどの情報をより閲覧しやすくするため、トップページのリニューアルを行なった。

②　東京の森と木・総合サイト運営事業

都民への森林・林業の普及啓発、木製品・特産品等の情報発信のため、東京都、多摩地域の自治体や森林・林業に関する団体が構築した WEB サイトの管理・運営を受託した。

③　ホームページ制作事業

森林・林業についての普及啓発の一環として、東京都森林組合のホームページ制作を受託し、ホームページの企画・制作、管理を行った。

「東京農業ＷＥＢサイト」
http://tokyonogyo.tama.jp/

「東京の森と木」
http://www.tamamori.jp/

（３）食育推進事業

国の食育基本法、都の東京都食育推進基本計画のもと、学校教育現場で行う生産体験学習の支援を行い、都民の農業や食物に対する理解を深める食育を推進した。

①　専門技術講習会の開催

東京都農林総合研究センター職員が講師となり、都内の学校教職員を対象に、生産体験学習を効果的に実施するための実践的な栽培技術等の講習会を行った。

また、講習会に必要なテキストを作成した。

実　　績	内　　容
講習会開催　　１９回 講習会テキスト作成　３回	《講習内容》 １「地域や学校の特色を生かした指導の基礎」 内容：生活科で扱う植物の栽培方法の理解 人数：都内学校教職員３４名 回数：１回（６時間） ２「農業系専門技術研修」 内容:バイテク技術等を利用した東京特産品種の育成技術研修等 人数：都内学校教職員３名 回数：８回（１６時間） ３「農業系先端技術研修」 内容：農業分野における最先端の専門的技術研修 人数：４名 回数１０回（２０時間）

②　講師派遣型による生産体験学習の推進

東京都が指定した小学校１０校に対し、講師派遣や資材導入、教材作成等を行い、学校における生産体験学習を実施した。

実　　績	内　　容
学校に対する支援　１０校 講師派遣　　１１名 教材作成等　　１０校	・新宿区立戸塚第二小学校　1～6 年生　189 名　野菜栽培 ・中野区立北原小学校　5 年生　53 名　水稲栽培 ・葛飾区立松上小学校　1～6 年生　274 名　ｻﾂﾏｲﾓ等 ・中野区立武蔵台小学校　2～6 年生　398 名　野菜栽培 ・練馬区立田柄第三小学校　1～6 年生　341 名　果樹栽培 ・八王子市立高倉小学校　5 年生　50 名　水稲栽培 ・八王子市立鹿島小学校　1～6 年生　393 名　ｻﾂﾏｲﾓ等 ・啓明学園初等学校　1～6 年生　337 名　野菜・水稲 ・多摩市立北貝取小学校　1～6 年生　169 名　野菜栽培 ・町田市立町田第一小学校　1～6 年生　602 名　野菜栽培 計　１０校　2,806 名

③　学校外体験型による生産体験学習の推進

東京都が指定した小学校６校に対し、資材導入、教材作成等を行い、地域の農業者と子供たちとの交流を含めた学校外の農地での生産体験学習を実施した。

実　　績		内　　容			
学校に対する支援	６校	・練馬区立八坂小学校	３年生	66 名	野菜栽培
資料作成等	６校	・北区立第三岩淵小学校	2,5 年生	82 名	水稲栽培
		・足立区立平野小学校	1～6 年生	348 名	野菜栽培
		・足立区立扇小学校	2,5 年生	109 名	ｻﾂﾏｲﾓ等
		・八王子市立上川口小学校	1～6 年生	55 名	野菜栽培
		・立川市立南砂小学校	６年生	262 名	野菜栽培等
		計　６校		922 名	

研究センターによる専門技術講習会

講師派遣型による生産体験学習
（サツマイモの苗植え：八王子市立鹿島小学校）

学校外体験型による生産体験学習
（田植え：北区立第三岩淵小学校）

（４）みどり東京プロジェクト体験事業

東京都の市町村が共同で開催した「みどり東京プロジェクト子ども自然体験事業」の企画、運営を受託し、森や里、海での自然体験、文化交流を通し、自然や伝統文化の大切さを啓発した。

また、多摩及び島嶼の体験施設を活用することにより、地域の活性化を図った。

事業期間　　平成１８年７月３日～１９年３月２３日
体験内容　　山の体験（日帰り１回、１泊２回）
　　里の体験（日帰り３回）
　　海の体験（２泊２回）
参加者数　　１６２名

山の体験「間伐」

山の体験「植樹」

里の体験「竹林整備」

里の体験「谷戸田の生物」

海の体験「磯の生物」

海の体験「御神火太鼓」